能登半島地震被災地支援活動 報告書

報告日：2025年3月24日
団体名：一般社団法人 Colabo

◇団体について

私たちは、虐待や性暴力の被害に遭うなどした10代を中心とする女性を支えるための活動をおこなっています。具体的には、家に帰れずに新宿など夜の街を彷徨っている少女たちに声をかけてつながる活動や、食事や物品の提供、夜の街で10代女性向けに開催する無料のバスカフェの運営、シェルターの運営などを行っています。

私たちは普段、路上を転々としながら過ごす少女たちと関わり、必要な物品を届けたりしていますが、災害時に同じような物が求められることを、今までの経験からも感じています。東北や熊本の震災後にも、現地で支援を行ってきました。

◇活動の概要

以下3つの活動を行い、約3,000名の方々に物品を届けるなどしました。

- (1)被災地域の高校や避難所等における若年女性への物品提供
- (2)若年女性向け無料カフェの開催、女性向け「お茶会」開催による心理ケア
- (3)若年女性に対する相談支援 等

- ・活動日数：48日(2024年2月、3月、4月、5月、7月、9月、10月、2025年2月に各1週間程度ずつ活動)
- ・活動地域：石川県輪島市、珠洲市、能登町、穴水町、金沢市、富山県氷見市
- ・対象人数(延べ数)：2,999名(特に若年を中心とした女性、その他被災した方々)
- ・活動場所(延べ数)：137か所(小中高校、避難所、児童養護施設、仮設住宅など)

◇活動の詳細

災害時は、女性にとって性暴力被害などのリスクが高まり、中高生世代は避難所等で孤立しがちです。発災後、現地では中高生や女性向けの物品が圧倒的に不足していたので、学校や避難所などを回り、女性向けの無料カフェという形で衣類や生活用品などを届けました。ブランケットなど暖かく過ごせる物、可愛いキャラクターのポーチや髪の毛がサラサラになるブラシなど、ないと生きていけないわけではないけれど、あると嬉しかったり、生活が少し快適になったり気持ちが楽になるものも用意しました。

また夏ごろからは、モール人形やアロマサシェなどを作るワークショップや、女性たちが安心してゆっくり過ごせるお茶会を開催してきました。毎月のように通い活動してきたことで、顔が見える関係になり、生活の状況や困りごとを共有してくれる方も多くいらっしゃいました。

特に「女性のお茶会」は、一緒にごはんやお茶をしながら、震災の経験や不安なこと、困ったことや今後に向けて心配なことなどを話すことができる場になればと思い、地元の女性たちと一緒に企画し開催しています。毎回30人～70人ほどが参加しており、参加した女性たちからは「こういう風に集まって話

せる場所がないから嬉しい」と声をかけてもらうことが多く、今後も継続して開催できたらと考えています。

◇ジェンダー課題

災害時は普段女性が置かれている状況が顕著に現れます。能登でも避難所を回ると、炊事場にいるのはいつも女性たちでした。物品を届けた時も様々なところで「避難所では管理者が男性なので、生理用品をもらいづらい」「女性向けの物品がない」という声を聞きました。メディア等による報道でも、状況について前に立って話すのは男性リーダーが多く、女性たちが声をあげにくい現実、声が世の中に届きづらい現実があります。継続して開催している「女性のお茶会」は、今回の震災に関連したことだけでなく、普段の暮らしに根付くジェンダー課題についても、想いを分かち合う場になってきました。

女性目線での支えが社会に少ない中で、本助成金により活動を充実させることができました。今後も痛みや怒りを分かち合いながら女性たちとともに声を届け、社会を変えていきたいです。